

みんなの議会 お知らせ版

一般質問：令和8年9月17日(木)13:00～

8年3定号

今回も前定例会に引き続き、YouTubeにより試験的にライブ配信を実施します。来場することが困難な方は是非「北海道沼田町議会」で検索してご覧下さい。

順番	質問者	質問項目	答弁者
1	 鵜野議員	食料システム法を活用した地域農業の持続性の確保について	町長
2	 長野議員	新るもい号で留萌市・北空知共同の交通体系再構築を	町長
3	 長野議員	沼田っ子が輝くスクールカウンセリング体制の構築を	教育長
4	 伊藤議員	バス転換道路の安全対策を	町長
5	 上野議員	今後の安定した農業経営のために必要な施策について	町長
6	 篠原議員	地域の防災力を高めるために	町長
7	 篠原議員	学校における修学旅行費の公費負担を	教育長
8	 大沼議員	長期化している物価・エネルギー高騰対策を	町長

令和8年第3回定例会は、9月17日～18日までの予定です。

9月17日 10:00～ 町長「一般行政報告」、教育長「教育行政報告」
13:00～ 一般質問(8件)

- 中途からの入場、退場もできますので、お気軽に傍聴下さい。
- 議場は役場3階です。ふれあいからエレベーターをご利用下さい。
- ふれあい1階ロビーでも、議会のテレビ中継がご覧いただけます。
- インターネットでのライブ配信は途中で映像が途切れる場合があります。その際は時間をおいてから再度「北海道沼田町議会」で検索してご覧下さい。

お問合せ先：沼田町議会事務局 TEL:0164-35-2117

一般質問一覧表（令和8年第3回定例会）

（通告順）

No.	議 席	議員名	件 名	答弁者
1	3	鵜野議員	食料システム法を活用した地域農業の持続性の確保について	町長
2	7	長野議員	新るもい号で留萌市・北空知共同の交通体系再構築を	町長
3	7	長野議員	沼田っ子が輝くスクールカウンセリング体制の構築を	教育長
4	6	伊藤議員	バス転換道路の安全対策を	町長
5	9	上野議員	今後の安定した農業経営のために必要な施策について	町長
6	2	篠原議員	地域の防災力を高めるために	町長
7	2	篠原議員	学校における修学旅行費の公費負担を	教育長
8	8	大沼議員	長期化している物価・エネルギー高騰対策を	町長
8件	6人			

【町長】

通告順	1	質問 議員	鵜野議員
質問 項目	食料システム法を活用した地域農業の持続性の確保について		
質問 内容	令和 8 年産のホクレン仮渡金は、「ななつぼし」で 17,000 円と決定しました。国のコスト指標 20,535 円を大きく下回り、北海道では委託費（除雪費や融雪費等）や乾燥調製費（灯油を含む燃料費や施設利用料等）、土地改良区負担（区画整備や施設維持費等）が重いため、同じ 17,000 円でも全国で最も再生産が困難な地域となっています。 町内の農業者から、肥料・燃料の高騰、資材価格の上昇、そして取引価格の低迷により、経営の持続性に対する強い不安の声が寄せられています。農業は本町の基幹産業であり、その持続性を確保することは、行政の基本的な責務であると考えます。 今年 4 月より、「食料システム法」が制定され、これは取引当事者に対し、コスト上昇を理由とした価格協議の申出に誠実に対応する努力義務が課されています。また、商慣習の改善や、食品事業者の計画認定制度による設備投資支援など、地域農業の持続性を高めるための具体的な仕組みが整備されています。 質問 1 町として、この状況を「再生産困難」と認識しているか。 またどの様に考えるか。 質問 2 町として、地域農業の持続性確保のため、この食料システム法を活用し、農業者の価格協議や取引環境の改善を支援していけないか。 または何か対策を考えているのか、今後の町の方針を聞きたい。		

【町長】

通告順	2	質問 議員	長野議員
質問 項目	新るもい号で留萌市・北空知共同の交通体系再構築を		
質問 内容	本年 4 月、JR 北海道は、「JR に乗るならえきねっと限定 JR きっぷが便利！」の触れ込みのスタートでしたが、今もなお不満や不安の声があります。 これに対し、高速バス「高速るもい号」は、全席自由・安い・深川札幌間 98 分で利用しやすいもう一つの公共交通機関としての選択肢がありました。しかし 7 月下旬、北海道中央バスから「高速るもい号～深川経由便が 9 月末日で廃止」の発表がありました。理由は、運転手不足と利用者の減少によるとの事でした。町民からは「もう滝川経由の碧水しかないね」との声も聞かれますが、北空知住民の公共交通はこのままで良いのでしょうか。現状の深川市立病院前経由の維持が困難であることを踏まえ、沿線自治体共同の「高規格道路を活かした新たな交通体系再構築」のチャンスと捉えてはどうでしょうか。 1, 高速るもい号（深川経由）の廃止は、北空知、留萌市共通の問題である現状を鑑み、沼田町はこのことについてどのように考えているのか。 2, 留萌市・北空知共同における住民の公共交通の確保を推進する「（仮称）新るもい号を走らせる協議会」を立ち上げ、乗降所、コース、停留所までのアクセス等について検討、協議し、持続可能案を北海道中央バスへ要望してはどうか。		

深川経由高速るもい号 廃止予定の便 ✕ 資料 1



高速乗合バス(路線バス)

2026年4月1日～2026年11月30日まで有効

留萌 ↔ **深川** ↔ **札幌**

●お問い合わせ 札幌(タ) ☎(0570)200-600
 滝川営業所 ☎(0125)24-6191 FAX(0125)24-6194
 深川営業所(空知中央バス) ☎(0164)26-3111

中央バスホームページ <https://www.chuo-bus.co.jp/>
 モバイルバッテリーはトランクルームへの預入荷物に入れないでください。
 お客様のお手元にて保管をお願いいたします。

留萌 ↔ 札幌 運賃 大人 2,910円 小人 1,460円
 往復乗車券 5,420円 (1枚当り2,710円)
 4枚回数券 (紙)10,700円 (スマホ)10,200円

深川 ↔ 札幌 運賃 大人 2,040円 小人 1,020円
 往復乗車券 3,850円 (1枚当り1,925円)
 4枚回数券 (紙)7,500円 (スマホ)7,200円

※4枚回数券の有効期限は、ご購入日より6ヵ月となります。

留萌(タ)	合同 庁舎前	深川市立 病院前	雨竜市街	滝川駅前 ③のりば	時計台前	札幌駅前		札幌駅前	札幌(タ)	滝川駅前 ③のりば	雨竜市街	深川市立 病院前	合同 庁舎前	留萌(タ)
7:57	8:03	—	8:54	9:20	10:53	10:59	深川 I・C 経由	10:10	10:16	—	—	11:48	12:43	12:50
9:00	9:06	10:03	—	—	11:34	11:38		11:00	11:06	12:46	13:03	—	13:56	14:02
14:40	14:46	15:43	—	—	17:14	17:18		13:30	13:36	—	—	15:08	16:03	16:10
15:57	16:03	—	16:54	17:20	18:53	18:59		16:40	16:46	18:26	18:43	—	19:36	19:42
18:20	18:26	19:23	—	—	20:54	20:58		18:30	18:36	—	—	20:08	21:03	21:10

満席の際は、次便以降のご利用をお願いする場合がございます。
 あらかじめご了承ください。

都市間高速バスへのペット(愛玩小動物)持込について、
 お断りさせていただいておりますので、ご理解をお願い致します。
 ※上記取扱いに「身体障害者補助犬法」に定められた補助犬、介護犬等は含みません。

中央バス運休情報

一部の携帯電話では
 ご覧になれない
 場合がございますので、
 ご了承ください。

<https://www.chuo-bus.co.jp/support/stop/>



バス接近情報 サービス 実施中!

QRコードはこちらから→



中央バス接近情報

検索

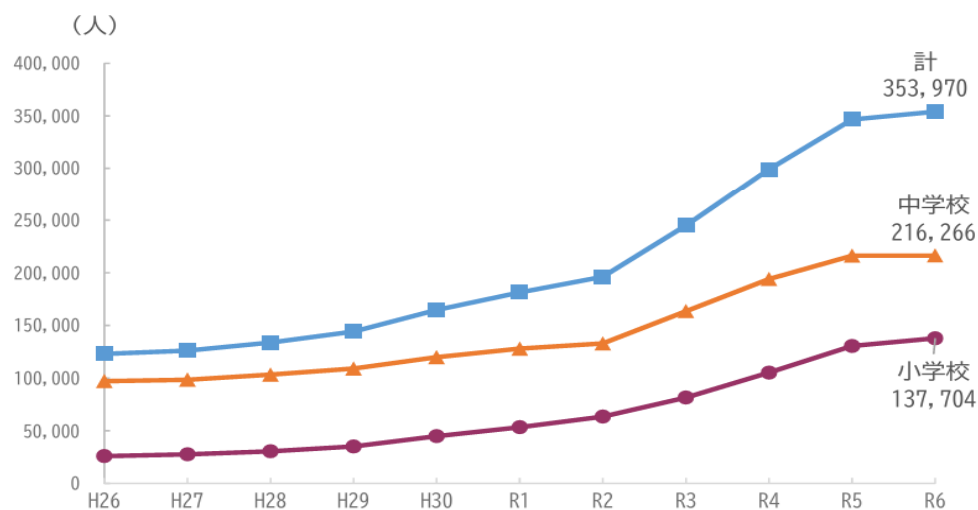
【教育長】

通告順	3	質問 議員	長野議員
質問 項目	沼田っ子が輝くスクールカウンセリング体制の構築を		
質問 内容	全国の小・中・高等学校にスクールカウンセラー（以下 SC）が配置されるようになって、30 年になりますが、その実態は十分とは言えません。 沼田小・中学校では、月に一回あたり 4 時間、多くても月に 2 回の限られた時間での勤務、相談体制となっています。 全道的には、配置時間がさらに短い傾向があり、札幌市（1 週あたり 1 回 7 時間）との地域間格差が顕著になっています。 多くの場合不登校などの問題は、あるとき突然不登校になるというよりも日々の学校生活の中で、子どもなりの様々なサインを出しながら、それらが積み重なって、最後に学校に行けなくなってしまうというケースが散見されます。 子どもが思いつめて「学校に行きたくない」、「体調不良で行けない」状態になってから対応するよりも、早期に教職員と SC とが現状を共有して協力できる体制があれば、より児童・生徒や保護者にやさしい支援になるのではないのでしょうか。 SC の業務は年々多様化しています。児童・生徒への直接的なカウンセリングだけでなく、保護者への支援、教職員へのコンサルテーション、事件・事故発生時の心理的ケアなど、その役割は広範囲に及んでいます。 近年は問題行動や不登校、いじめ、SNS トラブルなど、子ども達を取り巻く問題は地域と関係なく複雑化しており、限られた時間内での対応には限界があります。問題解決のために教職員とケース会議等の話し合うための時間の確保も必要です。 全国的に見ると一部の自治体では、SC 派遣を拡充するなど、支援体制の強化に乗り出しています。北海道においても、少しずつ配置時間を増加させ、人材育成のための予算措置も徐々に進められていますが、改善には至っていません。 1、 名実ともに「子育て日本一」の町にしていくためにも、地域間格差の解消を図って、沼田町の子どもたちが支援を受けられる体制づくりを進めていく必要があると考えますが教育長の見解は。 2、 今後、「卓球留学プロジェクト」などによる児童・生徒の環境の変化や新たな人間関係などの悩みも想定されますが、沼田町の独自の財源を使ってでも沼田っ子が輝くスクールカウンセリング体制の構築を望みますが教育長の見解は。		

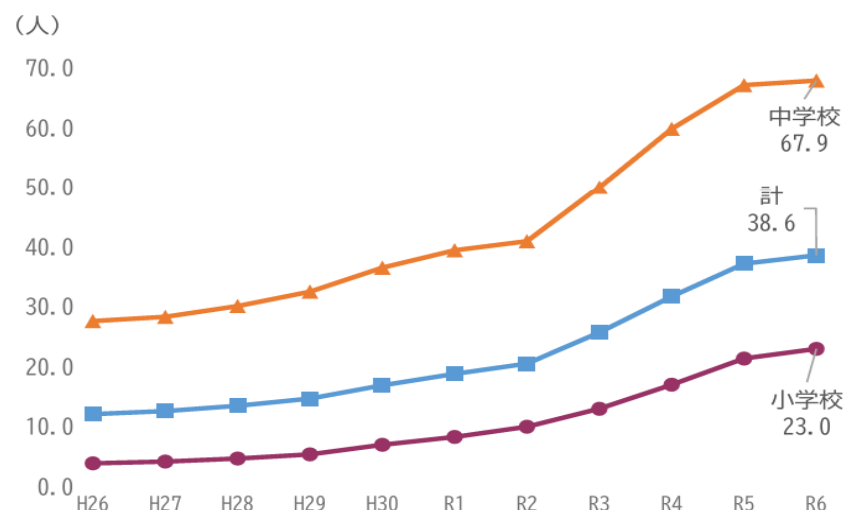
小・中学校における不登校の状況について

- 小・中学校における不登校児童生徒数は353,970人(前年度346,482人)と過去最多となり、12年連続で増加したものの、増加率は小学校5.6%(前年度24.0%)、中学校0.1%(前年度11.4%)、小・中学校全体2.2%(前年度15.9%)であり、前年度から低下した。
- 児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は38.6人(前年度37.2人)であった。

不登校児童生徒数の推移



1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移



不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
小学校	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350	81,498	105,112	130,370	137,704
	3.9	4.2	4.7	5.4	7.0	8.3	10.0	13.0	17.0	21.4	23.0
中学校	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777	163,442	193,936	216,112	216,266
	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9	50.0	59.8	67.1	67.9
合計	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127	244,940	299,048	346,482	353,970
	12.1	12.6	13.5	14.7	16.9	18.8	20.5	25.7	31.7	37.2	38.6

■ スクールカウンセラーの配置状況(全国)

	週4時間 以上	週4時間 未満	不定期 配置	配置無し
小学校	24.4%	38.6%	28.3%	8.7%
中学校	64.5%	21.5%	11.6%	2.4%

(出所)文部科学省の令和4年度「学校保健統計調査」を基に東洋経済作成

【町長】

通告順	4	質問 議員	伊藤議員
質問 項目	バス転換道路の安全対策を		
質問 内容	本年 4 月より、ＪＲ留萌本線の廃止に伴いバスが主要となる公共交通機関の運行が始まりました。沿線自治体では度重なる協議を行い、運行に至るまでの準備を進めてきたところですが、運行開始後の道路の安全対策が必要と考えます。 令和 8 年度の予算特別委員会で担当課に同様の話をさせていただき、沼田町は年に数回行われる関係市町の会議において安全性確保の必要性を提案していただいていると聞いておりますが、関係市町の認識の温度差もあろうかと思えます。 全国各地で異常気象の影響を受ける昨今、生活や通勤通学の基幹道路の除雪体制の確保や防雪柵による雪害対策が求められ、沼田町だけでなく、主要となるバス路線全体を見通した安全と運行の確保が必要と考えます。併せて、救急など緊急性のある車両が走行できる道路の確保も重要であり、北空知の中核病院である深川市立病院に繋がるバス路線を基軸とした道路の安全を関係市町で検証し、環境を整備する必要があると考えますので、以下の質問をいたします。 1. 留萌本線が完全廃止となり、深川方面の往来を生活道路としている町民にとっては道路の安全性、特に冬期間における防雪柵の設置などについての要望は以前からあると考えているが、関係市町協議会において理解は得られているのか 2. 関係する市町、バスの運営会社などにより路線の安全対策や運行に必要な事項を調査し、国や道、道路管理者に安全性と利便性を高める働きかけを行う必要があると考えるがどうか		

【町長】

通告順	5	質問 議員	上野議員
質問 項目	今後の安定した農業経営のために必要な施策について		
質問 内容	先日、2026年産の北海道米の概算金が「ななつぼし」が1万7000円、「ゆめぴりか」が1万8000円と発表され、昨年の価格に比べ40%の大きな引き下げに農家には動揺が広がっています。 今まさに、コメの収穫作業が始まっており、収量が砕粒や同割れなど品質の低下で収量減少の話が出ています。 更に、今年になって、原油高の影響で、資材や肥料、燃料費の高騰などによって、今年度の農家所得の減少は避けられない状況にあり、来年以降の農家経営には不安が募っています。 また、農家の離農もあり、2017年の農家戸数は160戸、2026年には130戸と30戸の農家は何らかの事情で離農し、このままの米価や農業経費の増加によっては離農が増えるのではと懸念しています。 そこで、農家の皆さんが今後とも安心して農業経営が出来るために、行政や農協が今後必要な施策について質問します。 1. 農家戸数が30戸減少した事について、横山町長の認識をお聞かせください。 2. 今まさに収穫期の農家にとって、建設以来30年を経過するスノークールライスファクトリーは生命線の一つであり、今年の一日の受け入れが昨年の750トンから700トンに変更になり、思うように出荷が出来ない状況であります。 一日の処理能力向上のための施設の改修手段や方法はないのか。 3. 農家が安心して農業経営が出来るよう、固定資産税の減免、経費の高騰対策等、農協や行政が何らかの施策を検討すべきと考えますが、横山町長の考え方をお聞かせ下さい。 以上、町長に質問致します。		

【町長】

通告順	6	質問 議員	篠原議員
質問 項目	地域の防災力を高めるために		
質問 内容	今年の熊本地域での 10 年ぶりの地震や、各地で連日のように発生する線状降水帯による大雨被害など、全国で深刻な自然災害が相次いでいます。避難所の劣悪な環境やプライバシー保護の欠如が問題視される中、避難生活における快適性や安心感の確保は極めて重要な課題となっています。 我が沼田町においては、プライバシー用テントや簡易ベッド、非常食の備蓄が進められているほか、送電網の喪失（ブラックアウト）に備えた発電設備の配備など、防災対策が段階的に進められている点は評価をいたします。 しかしながら、町全域に及ぶような大規模災害が発生した際、現在の備蓄量や設備が十分に機能するの点には懸念が残ります。また、いざという時に避難所を円滑に運営し、地域ぐるみで支え合うためには「自主防災組織」の存在が不可欠です。町からも立ち上げの呼びかけが行われているものの、結成に向けた動きは未だ十分に進んでいないのが現状です。 そこで、町民の命と避難生活の質を守る視点から、町長に以下の 2 点について伺います。 1. 現在の災害用備蓄品（食料、簡易ベッド、プライバシー用テント等）は、町全体の想定避難者数のうち、最大何名程度が何日間滞在できる量を確保できているのか。 2. 結成が進んでいない自主防災組織について、町はどのような要因分析を行っており、今後どのような具体的な支援や取組を進めていく考えか。		

【教育長】

通告順	7	質問 議員	篠原議員
質問 項目	学校における修学旅行費の公費負担を		
質問 内容	物価高騰が長期化し、実質賃金が低下する中、子育て世帯の経済的負担感是一段と増しています。本町がこれまで展開してきた医療費や保育料の無償化、また本年 4 月から開始された教材教具費の公費負担など、先進的な子育て・教育支援施策は評価できます。 一方で、「修学旅行費」については、一部補助が実現しましたが保護者負担の割合が依然として最も大きく、さらなる充実が求められます。修学旅行は学校教育における極めて重要な体験的学習であり、経済的状況にかかわらずすべての児童生徒が安心して参加できるよう支援することが求められます。 既に道内でも当麻町や歌志内市において全額補助が実施されているほか、一部補助を行う自治体も広がりを見せています。本町においては、物価高に苦しむ子育て世帯への支援、ならびに本町の子育て・教育施策の「総仕上げ」として、修学旅行費の全額公費負担制度を導入してはどうかと考えます。 つきましては、以下の点について所見を伺います。 1. 修学旅行費の公費負担に関する町側の現在の現状認識について 2. 他自治体の取り組み状況を踏まえた、修学旅行費への補助導入に向けた今後の考え方について		

資料 1 道内で修学旅行費の補助を実施しているおもな自治体

自治体	助成額	手続き
当麻町	経費の全額	必要なし
歌志内市	経費の全額	申請書を学校に提出
上川町	保護者負担費用の1／2	学校長がおこなう
共和町	バス借り上げ料の実質負担額 から1学級40人の場合で負担 する額を差し引いた額	
豊頃町	小学6年生＝1万円 中学3年生＝2万円	
沼田町	中学3年生＝2万円	

各自治体の公式サイトより

【町長】

通告順	8	質問 議員	大沼議員
質問 項目	長期化している物価・エネルギー高騰対策を		
質問 内容	本年 6 月の定例会におきまして、米イラン情勢とホルムズ海峡の緊迫化が地域経済や町民生活に及ぼす影響について質問いたしました。しかしながら、期待されたスイスでの平和交渉の不調により緊張状態は長期化し、我が国経済に重い影を落としたまま今日に至っています。コロナ禍が発生した 2019 年 12 月からの約 6 年間を振り返りますと、消費者物価指数は全体で約 15%、食料品においては 25%から 30%と大幅な値上がりとなり、町民の家計を圧迫してきました。そこへ追い打ちをかけたのが、本年 2 月末のホルムズ海峡封鎖によるエネルギー・物流ショックです。封鎖以降、卸売業などの企業物価指数は前年比プラス 7.2%へと急騰し、一時期抑えられていたエネルギー価格指数も再び前年比プラスへと上がっています。国は働き方改革の成果を主張しますが、実際の物価高騰スピードに追いついていないと感じています。 コロナ禍以降の長期的な物価高に、ホルムズ海峡問題による「エネルギー・物流高」が重なるという物価高の波が、これから冬を迎える町民生活を直撃しようとしています。 さらに深刻なのは、生活費の高騰にとどまらず、稲作農家が直面している危機です。 今年の営農計画での米価格は 2 万円と聞いていますが、概算金（仮払い）が 1.7 万円程度にとどまる一方、肥料・農薬・燃料・資材等の高騰により「生産コストが 2 万円以上かかっている」という実情が指摘されています。 こうした「生産コスト割れ」の状況は、営農継続そのものが揺らぐ危機的な事態と思っていますし、これから、過酷な冬を迎える町民や、生産コスト割れに苦しむ農家に対しての支援策も必要と考えています。本町は、コロナ禍以後、プレミアム商品券事業等で物価高騰に迅速な姿勢で対応されてきたことは評価いたしますが、重点支援地方交付金のみならず、町の財源も投入し、これから訪れる冬の暖房費増大に向けた「灯油購入助成や生活支援金の支給」と、コスト割れに苦しむ「米生産農家への直接的な営農支援」を講じるべきと考えますが、町長はどのような対策が必要とお考えか所信をお尋ねします。		